

TOP > 特集記事 > Fw:東北FanMeeting > Cheer Up! ProjectVol.5 陸前高田発 ワイナリーで世界基準のワインを目指す～被災した若者がUターンで拓く地域の未来 開催

特集記事

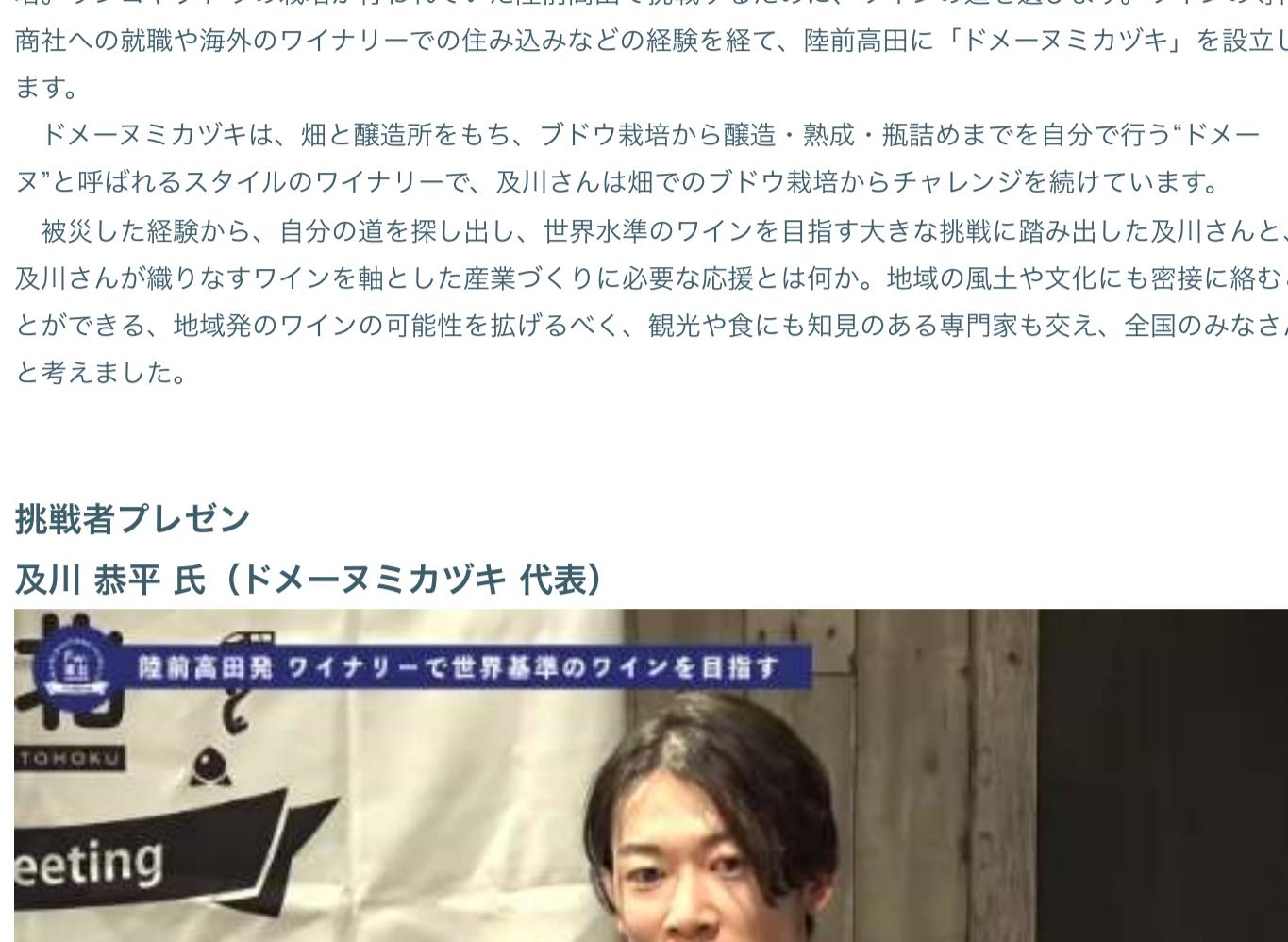
Cheer Up! ProjectVol.5 陸前高田発 ワイナリーで世界基準のワインを目指す～被災した若者がUターンで拓く地域の未来 開催

シェア Tweet

投稿日:2024年3月06日 カテゴリ:Fw:東北FanMeeting

Cheer Up! ProjectVol.5 陸前高田発 ワイナリーで世界基準のワインを目指す～被災した若者がUターンで拓く地域の未来 開催 イベントレポート

Fw:東北 Fan Meeting 2023 Cheer Up! Project Vol.5



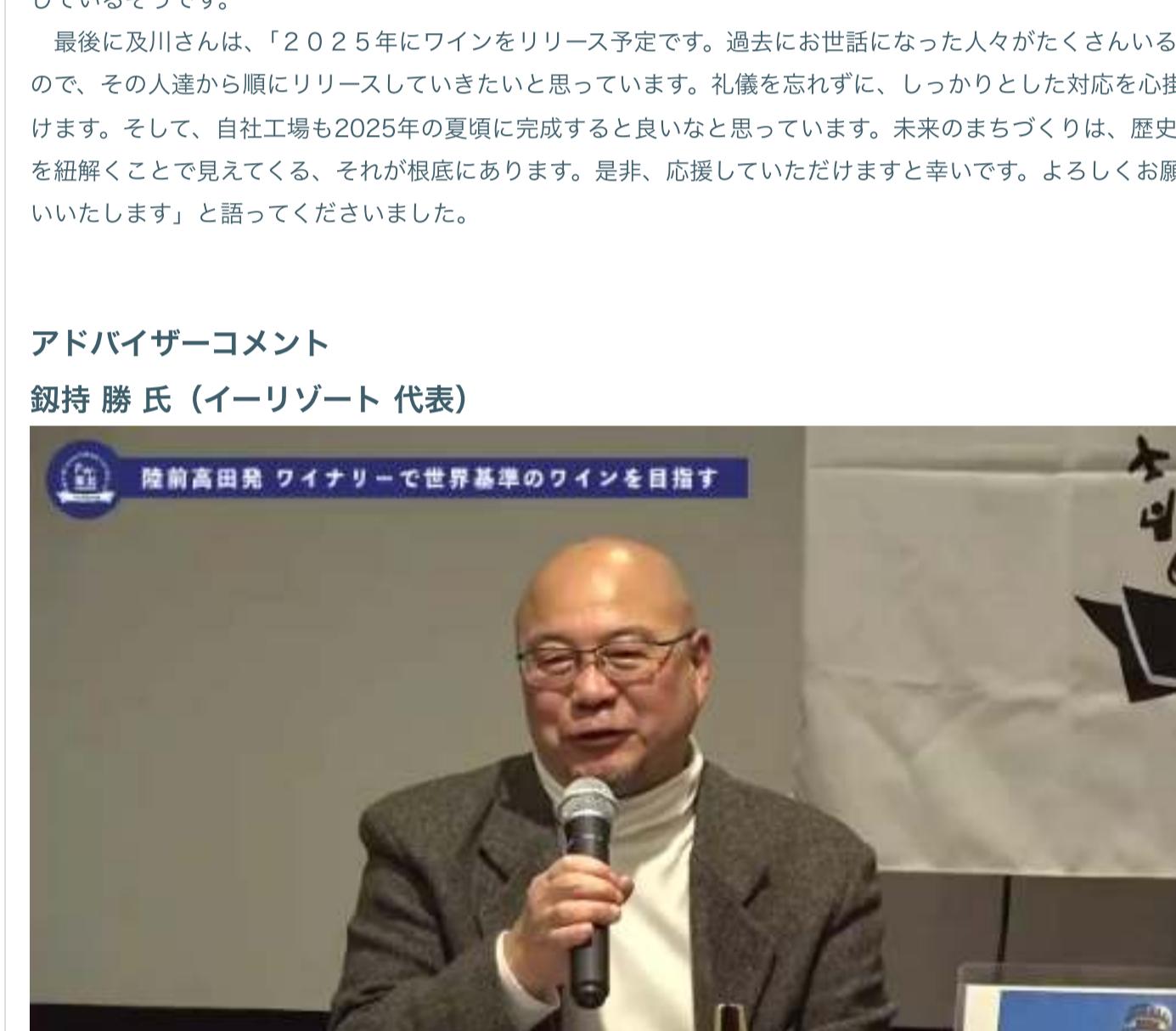
高校生の頃に岩手県陸前高田市で東日本大震災に遭った及川恭平さんは、将来、地元で産業を起こして町の復興に貢献しようと決意し、2021年にUターンを果たしました。及川さんが注目したのは、地元の果樹栽培。リンゴやブドウの栽培が行われていた陸前高田で挑戦するために、ワインの道を選びます。ワインの専門商社への就職や海外のワイナリーでの住み込みなどの経験を経て、陸前高田に「ドメーヌミカヅキ」を設立します。

ドメーヌミカヅキは、畑と醸造所をもち、ブドウ栽培から醸造・熟成・瓶詰めまで自分で行う「ドメーヌ」と呼ばれるスタイルのワイナリーで、及川さんは畑でのブドウ栽培からチャレンジを続けています。

被災した経験から、自分の道を探し出し、世界水準のワインを目指す大きな挑戦を踏み出した及川さんと、及川さんが織りなすワインを軸とした産業づくりに必要な応援とは何か。地域の風土や文化にも密接に絡むことができる、地域発のワインの可能性を拓げるべく、観光や食にも知見のある専門家も交え、全国のみなさんと考えました。

挑戦者プレゼン

及川 恭平 氏（ドメーヌミカヅキ 代表）



及川さんは、「人生のターニングポイントはやはり東日本大震災です。当時は高校2年生でした。自分が生き残ったのは何か意味があるのではないかと思い、地元に何か貢献できることはないと考えました」と話します。その後、及川さんは、大学でフードサイエンスを学び、食に関する職業を選択しました。

及川さんは、ワイナリーの設立を目指しています。「街づくり」という大枠の中でワイナリーがあると考えています。ワインを通じて様々なシナジー効果を生み出し、地域の資源を活用してコンテンツを作っていくたいです。現状認識をしながら、地形と歴史を活用した、真似できない街づくりを目指しています。地域の歴史ある果樹園と農地も大切にしたいと思いますが、温帯化の影響でリンゴはどんどん作りづらくなっています。一方で陸前高田におけるブドウ栽培にとってはメリットが増えます。ブドウをワインにし、人々が街に留まるようになります。また、ペアリングができるのがワインだと思います。海産物や寿司との結びつけを通じて、ワイン、農業、海産物などが一体化し、コンテンツとして成立すると思います。三陸でワイナリーを運営する意義を再考し、他と差別化した、尖ったワイナリーを設立したいです」と話してくださいました。

また、「なぜ陸前高田は全国的に珍しい沿岸の果樹産地なのか」を動画や写真を通して説明してくださいました。地理的特性（マイクロテロワール）や土壤など、環境要因が整っていることが示されました。

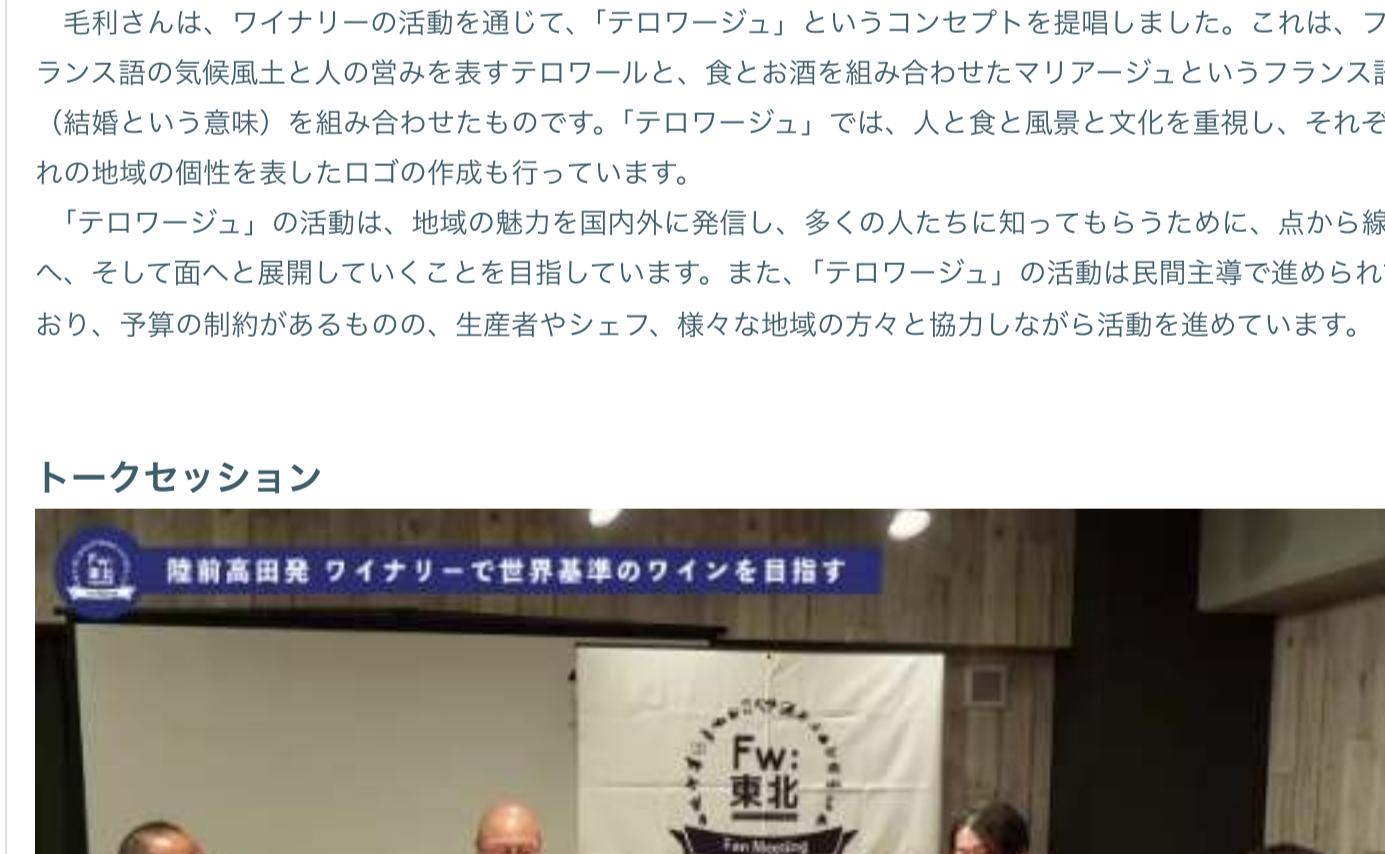
「ドメーヌミカヅキ」はコンセプトとして、月と海の満ち引きとかけられています。及川さんは「アルバリニヨ」という、リオハ海岸の気候風土にぴったりな品種のワイン作りを進めている予定で、ミカヅキという名を冠する事で、シミュレーションや具体的なペアリングを提供できると思います」とのことでした。

及川さんは、「歴史を飲む」をテーマに、地域の产品と連携しながら、「上下左右」の繋がりをつくるビジュアルイメージをもっています。先人の解明してきた地域のテロワールを活かして未来の人々に伝えていくこと、現代の人々とのつながりも重視して、点と点を繋げて線にし、それを面にして街として見せる必要だと感じているそうです。

最後に及川さんは、「2025年にワインをリース予定です。過去にお世話をなった人々がたくさんいるので、その人達から順にリースていきたいと思っています。礼儀を忘れずに、しっかりとした対応を心掛けます。そして、自社工場も2025年の夏頃に完成すると良いなと思っています。未来のまちづくりは、歴史を紐解くことで見えてくる、それが根底にあります。是非、応援していただけますと幸いです。よろしくお願ひいたします」と語ってくださいました。

アドバイザーコメント

釣持 勝 氏（イーリゾート 代表）



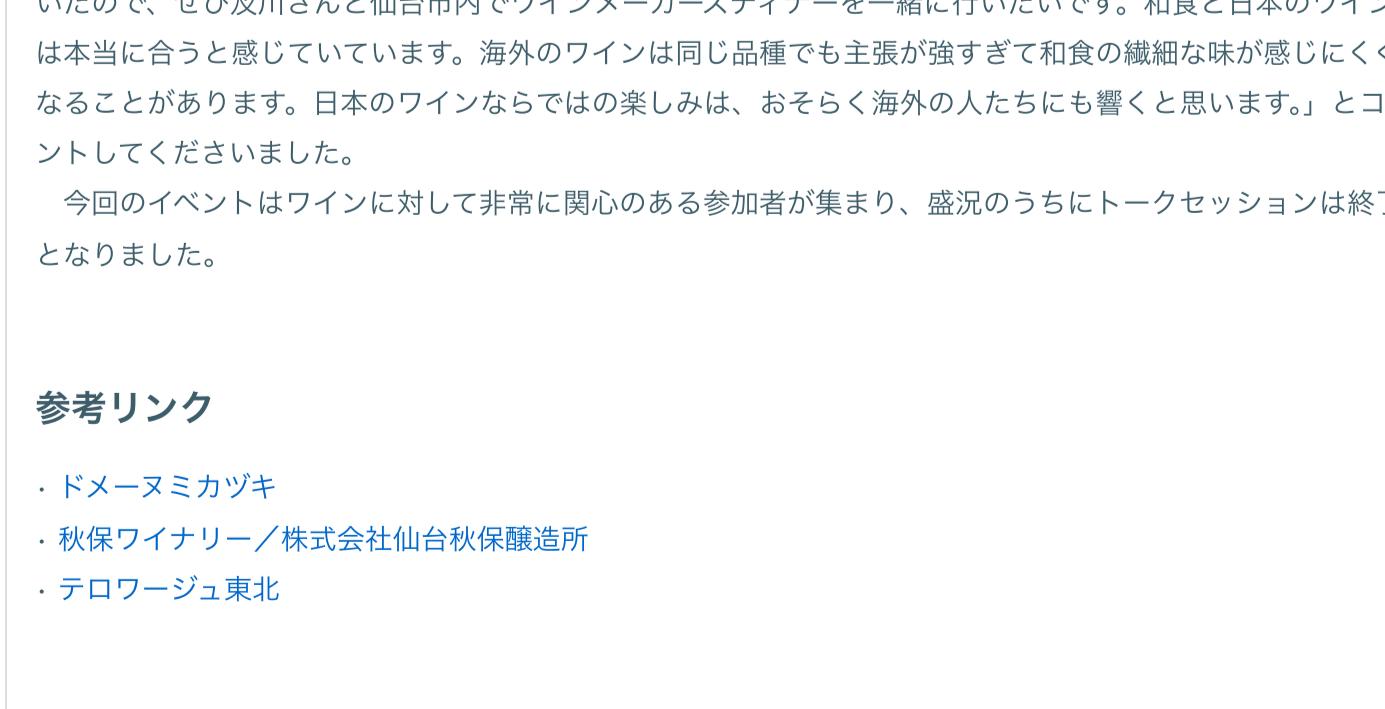
釣持さんは、海外のワイナリー形態について紹介してくださいました。「米国カリフォルニア州のナバホソマは合わせて300以上のワイナリーがあり、カリフォルニア州でディズニーランドに次ぐ第二位の観光地です。ワイナリーを巡って歩く文化が根付いています。

海外と日本を比較した場合に大きく違うのが、テイスティングに対する取り組み方だと感じています。日本では大抵、「美味しいでしょ」という程度の説明ですが、きちんとした説明を行う事が重要だと思います。海外のワイナリーでは、ワインを比べてどのような違いがあるか、経年変化でどのように変わっていくか、などをきちんと教えてくれます。

また、成り立ちを含めたストーリーをはっきり明示しているワイナリーも多くなっています。中には、『私たちがストーリーだけが売り物』と主張するワイナリーもあります。そうしたワイナリーで話を聞き、その歴史、例えばイタリアから渡ってきた時の歴史などを聞きながら、ワインを作っている場所や樽を見て、納得し、共感し、商品を購入するということを行っています。この辺が、日本のワイナリーと大きく違うところだと思います。

「テロワージュ」の活動は、地域の魅力を国内外に発信し、多くの人たちに知つてもらうために、点から線へ、そして面へと展開していくことを目指しています。また、「テロワージュ」の活動は民間主導で進められており、予算の制約があるものの、生産者やシェフ、様々な地域の方々と協力しながら活動を進めています。

トークセッション



ここから、登壇者と参加者の、ナビゲーターの原亮（エイチタス株式会社）も交えて、特定のお題にそって意見を述べ合うトークセッションが行われました。

ワイン作りにはどんな「ストーリー」や「物語性」が大切か、という質問が出されました。

及川さんは、「ワインにとって非常に大切なテーマが『持続可能性』です。環境に対する配慮（オーガニックやナチュラルな方法での生産）だけではなく、経営の『持続可能性』（収量の確保）も考える必要があります」と説明してくださいました。

毛利さんは、「ワイナリーの特徴を伝えるストーリーは、消費者が興味を持つ鍵になると思います。その地域ならではの特性、岩手県なら特徴的な土壤や地理的位置などを強調することに可能性を感じます。『持続可能性』については、環境への負荷を減らすだけでなく、ワイナリーの経営自体を維持することも重要です。気候変動や物価上昇などの影響を受けやすい農業において、持続可能な経営を行うためには、適切な営業戦略や販売戦略が大切だと思います。及川さんは、ワインを通じて地域の魅力を発信し、活躍していただきたいです」とコメントしてくださいました。

「ワインと寿司のペアリング」という話題でもトークが展開されました。及川さんは、「三陸にイタリアンやフレンチの食材は中々ないですが、寿司の職人はいるのでガストロノミーツーリズムを行うことが可能ですね。外国人も喜びますし、その土地特有の新鮮なネタがあると、東京で食べるお寿司と差別化できます。そして、寿司とワインの合わせ方を説明できるとペアリングをアトラクションのように楽しんでもらえると思います」と指摘されました。

釣持さんは、「しっかりと説明すれば単価が高くなることがあります。寿司とワインの取り合わせは良くて、苦手な人でも醤油の中にワインを一滴だけ垂らすとか、オリーブオイルを使用すると寿司が食べやすくなっています」と説明してくださいました。

毛利さんは、「今年の目標は仙台市内の寿司屋さんにワインとお寿司のペアリングを広めることです。寿司屋さんから、「美味しいとは思うけど、ワインをどのように合わせたらいいかわからない」という話を沢山聞いたので、ぜひ及川さんと仙台市内でワインメーカーと一緒に歩いています。和食と日本のワインは本当に合うと感じています。海外のワインは同じ品種でも主張が強すぎて和食の繊細な味が感じにくくなることがあります。日本のワインならではの楽しみは、おそらく海外の人たちにも喜ぶと思います」とコメントしてくださいました。

今回のイベントはワインに対して非常に関心のある参加者が集まり、盛況のうちにトークセッションは終りました。

参考リンク

- ドメーヌミカヅキ

- 秋保ワイナリー／株式会社仙台秋保醸造所

- テロワージュ東北

会議概要

日時: 2024年1月31日(水) 19:30-21:30
形式: Zoomミーティングによるオンライン会議

参加人数: 55名

主催: 復興庁

企画運営: エイチタス株式会社

協議会の会員による

様々な復興支援活動はこちら

お問い合わせ

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社JTB

Mail: new-tohoku@jtb.com

Tel: 03-6737-9291

©2015 「新しい東北」官民連携推進協議会. All Rights Reserved.

カテゴリ

「新しい東北」復興・創生の星顕影2023

「新しい東北」復興・創生の星顕影2022

「新しい東北」復興・創生の星顕影2021

「新しい東北」復興・創生の星顕影2020

「新しい東北」復興・創生の星顕影2019

「新しい東北」復興・創生の星顕影2018

「新しい東北」復興・創生の星顕影2017

Fw:東北FanMeeting

インタビュー2018

みちのくみつけ

東北の明日を切り拓く

東北の「新たな挑戦」